

西国巡礼慈悲の道

西国第九番

興福寺南円堂

「人間を超えたもの」

貫首 多川俊映

人間が一番エライ——。

そういう人間至上主義が社会のど真ん中に居座っています。人間が一番エライから、人間の都合がなにより優先されます。

自然環境の保全も、「自然にやさしく」とか「自然にやさしくしてあげる」などと、まことしやかにささやかれています。よくよく考えてみれば、これほど傲慢な物言ひもないのではないのでしょうか。

それというのも、私たち

は、自然の中に暮らしており、いつてみれば、自然の手のヒラの上で生活させてもらっている者たちです。

それを「自然にやさしく(してあげる)」とは、これ以上の傲慢ありません。立場がちがうというか、まさに主客転倒です。

いま、私たちの社会の重要なテーマは「自然と人間」ですが、本音は「人間と自然」でしょう。しかし、

本当のテーマは「自然の中の人間」なのではないでしょうか。つまり、自然の中の私たち人間がどうあるべきか、いま本当に問われているのは、このことではないかと思うのです。

自然はコントロールの対象などではなく、「自然にやさしく」というのは、もうリッパなコントロールです、いまこそ、自然とは人間を超えたもの——、と改めて捉え直すべきではないでしょうか。

神や仏もまた、人間を超えたものですが、そういう重大なものを失った時、私たち人間が何をしでかし、どうなるのか。すでに、私たちの社会の状況が証明しています。——がつつ食

べて、言いたい放題。そして、自分だけの当面の都合を言い立てて、他といがみ合ってばかりじゃないですか。すべては、人間を超えたものを見失った傲慢が大本です。

大いなる自然、そして、神仏の前に、深く自己をかえりみる——。それがいま、私たちに求められています。



西国第九番

こうふくじ なんえんどう
興福寺南円堂

ほっそう
法相宗大本山

御本尊／不空羼索観世音菩薩（国宝）

本願／藤原内麻呂公・冬嗣公

はるのひは なんえんどうに かがやきて

みかさのやまに はるるうすぐも



観音風光

- ◆ 当山では、現在、『天平の文化空間の再構成』を合言葉に、境内の整備と中金堂の再建事業を進めています。
- ◆ 瓦の御寄進・部材の御寄進・散華写経の御奉納などを申し受けております。
- ◆ 『平成の文化空間の再構成』に、ふるって御参加ください。

主な年中行事

- 正月二日 春日社参
- 二月節分 追儼会（東金堂）
- 二月十五日 涅槃会（本坊東室）
- 四月八日 仏生会（南円堂前庭）
- 四月十七日 放生会（一言観音堂）
- 四月二十五日 文殊会（東金堂）
- 七月七日 弁才天供（三重塔）
- 十月第一土曜日 塔影能（東金堂前庭）
- 十月十七日 南円堂大般若経転読会
- 十一月十三日 慈恩会（宗祖忌、仮金堂）

〒630-8213 奈良市登大路町48

TEL 0742-22-7755(寺務所)・24-4920(南円堂納経所)・FAX 0742-23-1971(寺務所)

<http://www.kohfukuji.com>

納経時間 午前9時～午後5時。

但し、近郊信者各位のお参りのため、納経所を午前5時～午後9時まで開けていますので、少人数の納経は、時間外でも受け付けます。

仏教用語一口解説

三帰依とは

三帰依とは、ブツダ（お釈迦さま）によって説かれた仏教徒の基本条件のこと。

昔ある長者の息子が、お釈迦様の教えを聞いて弟子になりました。息子の後を追ってきた長者はお釈迦様に会い、長者もまたお釈迦様の教えに心をひかれますが、家庭や仕事を捨てる事が出来ず、「どうすれば私でも仏弟子になれるのか」と尋ねた時に、お釈迦様が教えられたのが、「佛（師）・法（教え）・僧（実践する者）」に帰依の心を持つことを説いた『三帰依文』（南無帰依仏 南無帰依法 南無帰依僧）です。

西国三十三所札所会ホームページ <http://www.saikoku33.gr.jp>

西国霊場にご参拝の時は納経帳や白衣を忘れずにご持参ください。2回目以降はご参拝の印として重ねて納経印をいただきますよう。